

B-73 界面活性剤の乳化力，分散力

奈良女子大 ○玉井 久子
井上恵美子
吉川清兵衛

1. 界面活性剤の乳化力，分散力は洗淨の重要な因子である。しかもこの際添加される助剤がこれらの性能に影響を与える。われわれは各種界面活性剤ならびにそれらに通常混入されていると考えられる2，3の助剤を添加したものについて，これらの性能を検討し，助剤の乳化力，分散力に及ぼす影響を明らかにするとともに，さらに実際の市販洗剤におけるこれら性能とを比較考察することとした。

2・3. 界面活性剤はオレイン酸ソーダ (S. OL., 市販品)，ドデシル硫酸ソーダ (S. D. S. 市販試薬)，ドデシルベンゼンスルホン酸ソーダ (S. D. B. S., 合成品)，ポリオキシエチレンラウリルエーテル ($L^{20}OH$, 合成品)，N, N-ジポリオキシエチレンラウリルアミン ($L^{20}NH_2$, 合成品)，また助剤は芒硝，ソーダ灰，トリポリリン酸ソーダを使用した。乳化力はケロシン，分散力はカーボンブラックに対するもので，それぞれ乳化率(%)，分散能(%)を求めた。乳化力については，S. OL. は助剤添加により，ソーダ灰を除いてはあまり影響がない，しかし，S. D. S., S. D. B. S. はこれらの添加によって向上す

る傾向がある。また、 $L^{20}OH$ は単独ではかなりの乳化力があるが、助剤添加によって、やや低下がみられる。 $L^{20}NH_2$ は単独では $L^{20}OH$ より劣るが、この場合は助剤添加で向上する。分散力についても乳化力の場合とほぼ同様の傾向がみられた。これらの結果と各種市販洗剤の性能との関連性を考察する。